



これまでの「輝け！おばねっ子」は上のQRコードからご覧いただけます

～尾花沢の未来をひらくいのち輝く人間の育成～

※毎週月曜日発行予定です

修学旅行の思い出～「かかわり」を通して、人は育つ～



9月には、福原小、尾花沢中で修学旅行が計画されています。(尾花沢小、宮沢小、玉野小、常盤小、福原中は、1学期に既に終了しています。※常盤小は宿泊学習)

修学旅行の目的には、学校外での集団活動を通して、人間的な成長をめざすことが含まれているものと思っています。ここで、30年以上前の修学旅行の思い出を読者の皆さんに紹介します。

担任として、初めて引率した修学旅行での出来事です。

この学年では、「健康に過ごし有意義な修学旅行にするために、不要物を持ってこない」というきまりを、実行委員会を中心に自分たちで決め、「もし、一人でも守れなかったときは、徹底的に話し合う時間を取り、活動の制限を受け入れる」と話し合っていました。

しかし、当時は「修学旅行のきまりはあってないようなもの」的な面もあり、案の定、ある元気な男子生徒A君が不要物(携帯用ゲーム)を持ってきたことが発覚しました。

すぐに、食事会場に全員が集合し、話し合いが行われました。予定外の話し合い活動に、「入浴時間」がどんどんなくなっていきます。その日の活動で疲労困憊、汗だくの生徒たちにとっては耐え難い活動の制限となりました。そんな険悪な中、A君へ厳しい言葉が向けられました。「おまえのせいで、風呂に入れなくなった。どうしてくれる!」「みんなで決めたきまりを何だと思っているのだ!」

A君は、それらの言葉をうつむいて全身で受け止めていました。教師2年目の私は「どうなることか」とはらはらして事の成り行きを見守っていました。

10分ほどたったのでしょうか。大勢の前で話すことが苦手なA君が、顔を上げ、語り始めました。

「僕のせいで、迷惑をかけてしまいました。みなさん、ごめんなさい。」

「先生方、僕はどんな罰でも受けます。どうなっても構いません。ですから、きまりを守ったみんなをお風呂に入れてやってください。お願いします。」

深々と頭を下げたA君を前に、あれほど文句を言っていた生徒達がしーんとなりました。どれほどの時間がたったのでしょうか。先程まで容赦ない罵声を浴びせていた実行委員の女子生徒Bさんが、前に出てきて全体の方に向き直りました。さっきまで興奮して赤かった顔が、緊張でこわばっています。

「私はこのきまりを作った実行委員です。さっきまでA君に文句を言っていました。でも、実は私もきまりを破って、おこづかいを多く持ってきました。ごめんなさい。先生方、私もどうなっても構いません。どんな罰も受けます。ですから、みんなをお風呂に入れてやってください。お願いします。」

さあ、ここからは懺悔の雨嵐となりました。ウォークマン、ゲーム、余分なおこづかい…。結局半数以上の生徒がきまりを破って不要物を持ってきていました。

黙っていればもしかするとごまかし通せたかもしれない、しかし、正直に告白してくれた生徒達を、私たち担任団は叱らず、予定よりは短くなってしまったものの入浴許可を与えたのでした。

現在は45歳を超えた生徒たち。この修学旅行のことを覚えているでしょうか?

ちなみに、引率した先生方は、生徒たちをどう導いていくかについて、夜遅くまで話し合い、睡眠時間は3泊4日合計で10時間未満でした。



私にとって、このときの経験は何物にも代えがたい宝物となっています。あのときの生徒たちに心から感謝しています。ありがとう。

さて、おばねっ子の修学旅行では、どんな思い出が生まれる(生まれた)でしょうか?

【担当】尾花沢市教育委員会こども教育課
教育指導室長 工藤 雅史
TEL 23-3330